



学校だより

文武

【川場中魂】

文武両道で挑戦し自分のよさを発見、
利他共生の精神で支え合って生きる

チャンスのつかみ方、 チャンスの生かし方

秋の日はつるべ落としと言いますが、日が暮れるのがあつという間で、その後の夜が長いことを表しています。と言っても時間はいつでも、誰にでも平等であり、有効に使わなければなりません。中国の歴史家、司馬遷が史記の中で『時は得がたくして、失いやすし』と言っています。意味は、「人生の中でチャンスはなかなか巡ってこない、たとえ来たとしても油断するとすぐに取り逃がしてしまう」というものです。やるべきことを先送りしたり、逆に無意味なことや時間を費やすとチャンスには巡り会いません。大きなチャンスをつかむためには、普段から練習が必要なのです。そこで、『即行即止』と

という言葉を紹介いたします。『即行』とは気づいたらすぐに行うこと（必要なことは後でなく今）、『即止』とは無駄と気づいた時点ですぐに止めることです。この考え方で行動力と決断力を養います。運やツキは与えられるものでなく、自らつかむものです。毎日小さな目標を立て、やると決めたことは集中してその日のうちにやり、無駄を省いて時間を作りましょう。失敗したと後悔する時間も無駄な時間です。くよくよするよりも、限りある時間を有効に使い、チャンスを呼び込んで、つかみ取りましょう。そして、つかんだチャンスを生かすには、よく考えることが必要です。イソップ童話の「ロバを売る親子」のように、他の意見に追随し、何も考えなかったために失敗することのないように、人の意見を参考にしながらも、しっかりと自分の頭で考えて判断しなければなりません。成功するにはチャンスに恵まれるだけでなく、正しい選択をすることが大事です。（学校集会より）

村子ども議会に参加

11月18日（金）に、本校3年生が「村子ども議会」に参加することができました。社会科の主権者教育や総合的な学習の「村への提言」の一環として、村長さんや村議会の全面的な協力の下、本物の議場で質問したり、意見を提案したりしています。当日は、3年生徒が見守る中、代表生徒が質問・提言を行いました。村の空き屋問題、村内雇用の現状と将来、観光客のごみポイ捨て、登下校道路の安全確保、妊婦さんへの出産支援策等多岐にわたりました。この3年生の中から、将来の村長が誕生するかもしれません。



校内球技大会 実施

11月25日（金）校内球技大会が行われました。コロナ対策や授業時数確保の観点から、多くの中学校でなくなつてしまつた行事ですが、本校では生徒たちの自主的な運営の下、学級の団結

力を高める行事として行っています。生徒たちの楽しみな行事でもありません。種目は、バレー、バドミントン、ドッジボール、バスケットの4競技です。結果は、3年生が貫禄を見せて優勝ですが、全員が楽しい午後の一時を過ごせました。



◆県駅伝大会出場！

11月12日（土）渋川総合運動公園周辺コースにて、県中体連駅伝大会が行われました。駅伝の県大会はアップダウンで有名な難コースですが、本校女子チームが果敢に挑み、襷をつなぎました。

メンバー

宮田奈渚、津久井夢華、小林美月、
今井陽実、津久井愛華、高井菜々花
須藤萌衣、大川ゆず

長い間の苦しい練習に耐え、精一杯頑張りました。

☆3年生の今井陽実さんが共愛学園中
学生英語スピーチコンテストの予選
を通過し、11月3日（木）の本線に出
場しました。

「やるしかない！」と自分を奮い立たせて取り組み、「まあいいか」と気持ちを切り替え次に進む。